



さしつ子便り

唐津市立佐志小学校
学校だより 第22号
令和8年2月2日(月)
文責:校長 平山美代子

学校教育目標 「わたしらしく あなたらしく 輝くさしつ子」～気づき・考え・実行する子どもの育成～

うめいちりん いちりん あたた はっとりらんせつ
「梅一輪 一輪ほどの 暖かさ」 服部嵐雪

暦の上では春を迎えますが、まだまだ寒い日が続いています。この寒さを乗り切ったら、少しづつ春の気配も感じられるようになるとか思います。学校では「三園新入学児体験学習」や「六年生を送る会」と一年を締めくくる行事に向けて準備をしています。

2月の全校朝会の話 「三人のれんが職人の話」～仕事や勉強の目的は～

イソップ寓話に「三人のれんが職人」という話があります。全校朝会で紹介しました。

世界中を旅している旅人が、三人のれんが職人に会いました。
一人目のれんが職人は疲れ切った顔で仕事をしていました。
「何をしているのですか。」旅人が尋ねると、職人は答えました。「何って見てのとおり、れんがを積んで壁を作っているのさ！朝から晩まで、暑い日も寒い日も一日中れんが積みをしているのさ。腰は痛くなるし、手もボロボロさ。もっと楽な仕事をしている人はたくさんいるのに、俺はついでいるのさ。」
旅人は「それはお気の毒に、がんばってください。」と声をかけました。

また、少し歩くと二人目のレンガ職人に会いました。今度は先ほどの職人のようにきつい顔はしていません。「何をしているのですか。大変ですね。」旅人が声をかけると、「ここは仕事を見つけるのが大変で仕事があるだけありがたいことなのさ。おかげで家族を養うことができているんだ。生活のために必要なんだ。」「そうでしたか。がんばってください。」旅人は声をかけました。

また、少し歩くと三人目のレンガ職人に会いました。なんだか嬉しそうに仕事をしています。
「何をしているのですか。大変でしょう。」旅人は尋ねると、「とんでもない、俺たちは歴史に残る偉大な大聖堂を作っているんだ。多くの人が祝福をうけ苦しみや悲しみをいやして、幸せになるんだ。すばらしい仕事をしているんだ。」と答えました。

三人は同じ仕事をしています。でも、それぞれの働く意識、目的意識は違っています。一人目は特に目的ではなく、二人目は生活のため、三人目はみんなの幸せのため、皆さんはどの職人さんの仕事が魅力的だと思いますか。仕事を頼むとしたらどの職人さんに頼みますか。

私は勉強も同じことではないかと考えます。この話に例えると、「先生から言われたから仕方なくやる」「自分の為にやる」「学んだ知識や知恵を社会の人の為に使う」、と置き換えられます。同じ事をしてもポジティブに思考することで、さらに値打ちのあるものに変わるような気がします。



◆新年書き方会 *地区審査 1/29

うれしかったこと

早くに伝えたかったのですが、二学期に唐津市内の人権教育担当の教職員を対象にした授業公開をしました。その研修会に参加された他校の先生からいただいた感想を紹介します。

◆「毎朝、佐志小の前を通って通勤します。信号のない横断歩道で止まるとき、さっと歩き、渡りきると必ずお礼をしてくれます。低学年の子も高学年の子もしてくれるので、とても気持ちの良い朝を送っています。すばらしい子どもたちですね。」

学校以外の場所での子どもの良い姿を教えていただき、大変うれしかったです。

六年生・新一年生のために がんばってお花を育てます！

卒業式や入学式の会場を飾るお花を一年生が育て始めました。学校園や植木鉢に、天川先生や里口先生の指導を受けて植え付けをしました。ありがたいことに、お花の苗は「学校が明るくなりますように」と神田の今泉種苗店様がたくさん寄贈してくださいました。

